

<一般社団法人福島県法人会連合会会長賞>

希望の税金

白河市立白河第二中学校 3年 鈴木 葉月

幼稚園から、帰ってきて何気なく過ごしていた。だんだん眠くなってきて少し寝ようとしたその時、急に大きく揺れた。突然過ぎて何が起きたかわからなかった。そのまま動けなくなっていたとき母に

「早く外に逃げなさい。」

と言われて慌てて外へ飛び出した。まだ、揺れが続いていた。怖くて目をつぶっていた。だんだん揺れが収まってきた。ゆっくり目を開けると、見たことのない世界が広がっていた。外に置いてあった植木鉢や自転車が倒れていた。さらに、家の壁や道路などにひびが入っていた。心なしか世界の色がにごっていた気がした。

私は祖父母の家に避難した。祖父母の家は運良く物が少し落ちるくらいだった。私はそこで、数日間過ごした。自分の家の安全が確認できたので家に戻った。植木鉢や自転車はもとに戻りになり、散らかっていた家の中はきれいになっていた。しかし、家の壁や道路のひびは直っていなかった。

他の場所では、土砂崩れが発生したり、地盤沈下がしたりしていた。

あの東日本大震災が起きてから八年。私の住む地域は、震災以前のような町並みになっている。この復興にはある税金が使われている。その税金とは「復興特別税」。この税金があったから私の町はもとに戻った。

「復興特別税」とは、東日本大震災の復興のために必要な財源を確保するために新しく出来た税。これは東日本大震災が発生して、一か月と四日で提起された。この早い判断で東日本の復興を導いた。私も無事に小学校の入学式を迎えることができた。

私の地域は、沿岸の地域に比べれば被害が小さかった。沿岸地域は津波の被害に遭い、家や車などが流された。私もテレビで見た、大きな黒いものが町を飲み込んでいくのを。この津波は約四時間も町を襲った。その後も船や車がありえない場所にあっ

たり、家のがれきで埋まったりしていた。そんな彼達を救ったのも、「復興特別税」。震災以前と同じくらいになっていない地域もあるけれど、多くの地域が救われた。

この「復興特別税」のおかげで、今を生きている。この今を亡くなった人の分まで、一生懸命、生きようと思う。この税金は、私たち被災者にとって希望の税金だ。私はこの税金で、まだもと戻りになっていない地域をなくし、東日本がもっと発展していくことを願う。